

日本人韓国語学習者における
分かち書き認識に関する一考察
——世宗学堂の学習者を中心に——*

キム ミンス

東海大学紀要

国際教育センター

(英語教育部門・国際言語教育部門)

日本人韓国語学習者における
分かち書き認識に関する一考察
—— 世宗学堂の学習者を中心に ——*

キム ミンス

A Study on the Recognition of Word Spacing among Japanese Learners of
the Korean Language
—— Focusing on Students of the King Sejong Institute ——

Minsoo Kim

This study examines the recognition of word spacing among Japanese learners of the Korean language at the King Sejong Institute, an institution for Korean language education recognized by the government of the Republic of Korea. The study employed a sample of 213 learners, and organized their responses by class level. The findings of this study can be summarized as follows: (1) A total of 81.2% of all learners, across all classes, responded that they “knew about” word spacing, and no learners responded that they did not know anything about it. From this result, it is apparent that there is a high level of recognition of word spacing among students at the King Sejong Institute. However, only 23% of learners across all classes correctly identified “words” as the basis of word spacing, and 63.8% mistakenly identified the basis as “readability”. Looking at individual classes, Sejong 5 had the highest ratio of correct responses, at 32%, and Sejong 6 had the lowest, at 12%. This shows that progressing in class level does not necessarily guarantee natural acquisition of understanding of word spacing. (2) Regarding the location where students learned about word spacing, 72.6% (across all classes) responded that they had learned about it in King Sejong Institute classes. However, as the King Sejong Institute does not have a unified policy for teaching word spacing, the results are likely to have been affected by the assigned instructors. (3) A total of 82.2% of learners across all classes responded that they paid attention to word spacing when writing in Korean, showing that most learners are actively aware of word spacing. On the other hand, the study also showed that 82.6% of all learners found word spacing to be difficult. (4) A total of 97% of all learners believe that instruction in word spacing is necessary as part of

※ 本稿は平成29年度～31年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）による基盤研究（C）「日本人学習者におけるレベル別韓国語表記指導法の開発」（研究代表者：キムミンス，研究課題番号17K02942）による研究成果の一部である。

class material, showing that they would like guidance on word spacing during class time. A total of 87.3% of learners also responded that they believe word spacing should be taught at the introductory level, showing that they see its use as part of the fundamental knowledge of writing in Korean. There were also students in the intermediate and advanced classes who responded that spacing should be taught at each proficiency level, suggesting that there are learners who would like to receive instruction in spacing tailored to their level.

キーワード：日本人韓国語学習者, 分かち書き, 認識調査, 韓国語教育

1. はじめに

韓国語の分かち書きはその規定が複雑で曖昧であることから韓国語母語話者も間違えることが多く、日本人韓国語学習者に対する分かち書きの教育は必要ではないとの考え方もある。しかし、2節で検討する先行研究では韓国語学習者の多くは分かち書きの教育を望んでおり、韓国語ネイティブ教員の多くがその必要性を感じていることが指摘されている。

一方、日本における韓国語教員と日本人学習者の分かち書きの教育に関する認識調査はこれまでほとんど行われておらず、実際韓国語教員と日本人学習者の認識については把握されていないのが現状である。金珉秀(2016)は東海大学で韓国語を学んでいる日本人初級学習者22名のうち81.8%が分かち書きの教育の必要性を感じていることを指摘したが、調査対象の数が少なく、日本人学習者に対する分かち書きの指導の現状や必要性を把握するには不十分であった。

そこで、本稿では駐日韓国大使館韓国文化院の世宗学堂の入門・初級・中級・上級クラスの日本人学習者を対象に分かち書き認識について調査した結果を報告する。本調査は今後の分かち書きの教育で取り組むべき課題について検討する上で資料とする基礎調査として実施したものである。

2. 先行研究

分かち書きの使用実態および指導方法に関する研究はこれまで韓国語母語話者を対象として多く行われてきたが、2012年頃以降は外国人韓国語学習者を対象とした研究も行われつつある。しかし、そのほとんどは中国人学習者を対象としており、母語別韓国語学習者を対象とした研究はまだ十分に行われていないと言える。最近では、韓国の国内外で多様な目的で韓国語を学ぶ学習者が増え続けている一方で、分かち書きの教育に関する指導法が確立されていないことから、韓国語教員と韓国語学習者の分かち書きに対する認識についての調査研究も行われている。これらの研究は、学習者のニーズを分析し¹⁾、彼らが必要とする学習内容と方法により

1) ニーズ分析は教育課程の開発の一部であり、教育カリキュラムを計画するときに必修的な段階として1960年代に登場したが⁸⁾ (Richards (2001: 51), アメリカではESP (English for Specific Purpose) を通じて英語教育で紹介された。これは学習者のニーズを収集するときに使用される手続きで、教育課程開発の基本的な課程であり、教育カリキュラムは学習者のニーズ分析に基づいて行われるべきである (신조오 후토시 (2004: 29))。この考え方は英語教育だけでなく、学習目標が多様化・高度化している外国語教育や日本語教育、生涯学習においても学習者のニーズ分析による教育内容、教授法、教材開発など教育課程に反映す

教育課程を開発することを目的としている。以下では分かち書きに関する韓国語教員と韓国語学習者の認識調査に関する研究を中心にその研究動向を検討する。

まず、韓国語ネイティブ教員を対象とした認識調査を行った研究には송경옥 (2012), 이은영 (2015), 송유주 (2016), 유일선 (2018) などがある。송경옥 (2012) によると、韓国語教員の63.6%が分かち書きの教育の必要性を感じているが、教育課程と教材に含まれておらず、指導内容と方法を知らないため、指導しないとしている。이은영 (2015) の認識調査では多文化家庭と外国人労働者を教える初級課程の韓国語教員は教材に分かち書きの内容がなく、コミュニケーション中心の教育を行っており、分かち書きに関する教育はほとんど行わないが、大学の語学堂で中級課程を教える韓国語教員は分かち書きの教育は必ず行うべきであるとしていることが明らかになった。송유주 (2016) では韓国語教員の96% (25名中24名) が分かち書きの教育が必要であると答えた。유일선 (2018) は韓国語教員8名の分かち書き認識および指導実態調査を行ったが、その結果、韓国語教員2名が分かち書きの許容規則を含めたすべての分かち書き規定を教えるべきだと答え、6名は選択的に分かち書きを教える必要があると答えた。

次に、韓国語学習者の分かち書きに関する認識調査を行った研究には완자미 (2012), 정로 (2012), 유정 (2013), 이해경 (2013), 이은영 (2015), 송유주 (2016) などがある。완자미 (2012) では中・上級の中国人学習者(100名)の95%が分かち書きの教育を望んでいることが明らかになった。初・中級の中国人学習者102名を対象と認識踏査を行った정로 (2012) では分かち書きの教育の必要性について68.6%が必要だと答えている。유정 (2013) では、中・上級の中国人学習者(40名)の97.5%が分かち書きを知っており、100%の学習者が分かち書きの教育が必要だと答えた。이해경 (2013) では東南アジア出身の初・中・上級の学習者(87名)の71%が分かち書きを知っており、79%が分かち書きの教育を希望することが分かった。이은영 (2015) では中国やカンボジアなどの留学生と外国人労働者(40名)の60%が授業時に分かち書きを学んでいないが、学習者は常に教育を受けたいと望んでいることが明らかになった。송유주 (2016) では70%の学習者が分かち書きの教育が必要であると感じていることが分かった。

これらの研究により、韓国語学習者の分かち書きに関する認識や分かち書きの教育の必要性が認識されるようになったが、日本人学習者を教える韓国語教員や日本人韓国語学習者の分かち書きに関する認識調査はほとんど行われておらず、日本における分かち書きの教育の実施実態および学習者のニーズはほとんど把握されていないのが現状であると言えよう。

3. 調査の概要

3.1. 調査対象

本調査では、韓国政府が公認する韓国語教育機関である世宗学堂(駐日韓国大使館韓国文化院)の日本人韓国語学習者213名(女189名, 男24名)を対象にアンケート調査を行った。世宗学堂の定期講座では韓国の文化体育観光部と国立国語院により開発されたテキスト『世宗韓国語1~8』を使用しており、入門クラス(世宗1・世宗2)から上級クラス(世宗7・8)ではそれぞれ『世宗韓国語1・2・3・4・5・6・7・8』を使用している。テキストは4月

ることが必要であるとされている(カイト由利子他(2002:94), 田中祐輔他(2011:169)など)。また、韓国語教育においても学習者のニーズを把握し、教材開発や教育カリキュラムを開発することが必要であると指摘されている(민현식(2004:60), 김인규(2003:87), 김정숙(2000:18), 강승혜(2003:4), 권미정(2001:321)など)。

から翌年の3月までの1年間使用する。世宗学堂の受講生を調査対象とした理由は、表1のように入門から上級レベルの学習者が在籍しており、体系的な教育課程によるレベル別韓国語教育が行われているからである²⁾。

各クラス別のレベルと学習時間、受講人数は表1の通りである。世宗1と世宗2は入門クラス、世宗3と4は韓国語能力試験(TOPIK)の初級レベル(1級・2級)、世宗5と6は韓国語能力試験(TOPIK)の中級レベル(3級・4級)、世宗7と8は韓国語能力試験(TOPIK)の高級レベル(5級・6級)に該当する。今回調査対象となった各クラスの授業は2017年4月からスタートしており、9月に欠員による受講生の追加募集があったが³⁾、2018年3月の時点でほとんどの受講生が継続して1年間受講している。

表1. 世宗学堂のクラス別レベルと受講人数

クラス	レベル	受講人数 (女/男)
世宗1 <2> ⁴⁾	文字の読み書きからスタートする初心者向けのクラス。	22名 (21/1)
世宗2 <2>	週1～2時間1年以上勉強された方で、韓国語の基本文型を理解できる方が対象。(60時間以上の学習者)	28名 (25/3)
世宗3 <3>	週1～2時間2年以上勉強された方で、挨拶や趣味活動、自身の経験などに関する日常会話が可能であり、自己紹介や家族紹介ができる方。スタート時に韓国語能力試験初級(1級)レベルの方が対象。(120時間以上の学習者)	39名 (33/6)
世宗4 <4>	平易な韓国語を聞き、話すことができ、旅行会話に困らない程度の会話ができる方、スタート時に韓国語能力試験初級(2級)レベルの方が対象。(180時間以上の学習者)	35名 (34/1)
世宗5 <2>	日常言語生活において不便がなく、よく使われる言葉、文章であれば十分理解でき、意思伝達が可能な方、スタート時に韓国語能力試験中級(3級)レベルの方が対象。(240時間以上の学習者)	25名 (22/3)
世宗6 <2>	日常言語生活において不便がなく、電話などでもコミュニケーションが可能な方、韓国文化に関心のある方、スタート時に韓国語能力試験中級(4級)レベルの方が対象。(300時間以上の学習者)	24名 (22/2)
世宗7 <2>	日常言語生活において不便がなく、難しいテーマについても理解したり自身の考えを表現できる方、韓国文化に関心のある方、スタート時に韓国語能力試験高級(5級)レベルの方が対象。(360時間以上の学習者)	22名 (17/5)

2) 世宗学堂は現在世界57カ国174カ所で運営されている。

3) 世宗学堂の2017年度9月の新規受講者数は27名であり、全体(総受講者数318名)の8%を占めている。クラス別新規受講者数は「世宗1(45名中6名)、世宗2(48名中1名)、世宗3(46名中2名)、世宗4(44名中2名)、世宗5(41名中22名)、世宗6(35名中0名)、世宗7(35名中7名)、世宗7(24名中2名)」となっている。

4) <>内の数字は開講クラス数である。世宗学堂ではレベルごとに2～4クラスがあり、担当教員も違う場合がある。今回調査対象のクラスでは世宗3と世宗4クラスで2名の教員が担当している。詳しいクラス情報については韓国文化院 HP の世宗学堂のクラス案内を参照。(https://www.koreanculture.jp/sejong_class.php)

クラス	レベル	受講人数 (女/男)
世宗 8 <2>	日常生活において、また比較的身近な社会的テーマや自身の関心分野について意思伝達が可能な方、スタート時に韓国語能力試験高級(6級)レベルの方が対象。(360時間以上の学習者)	18名 (15/3)
		計 213 (189/24)

今回の調査対象者に関する情報は図1～図4の通りである。図1に見るように世宗学堂の受講者の性別比は全クラスを通して女性88.7% (189名), 男性11.3% (24名) となっており, 女性が男性に比べて多くなっている。

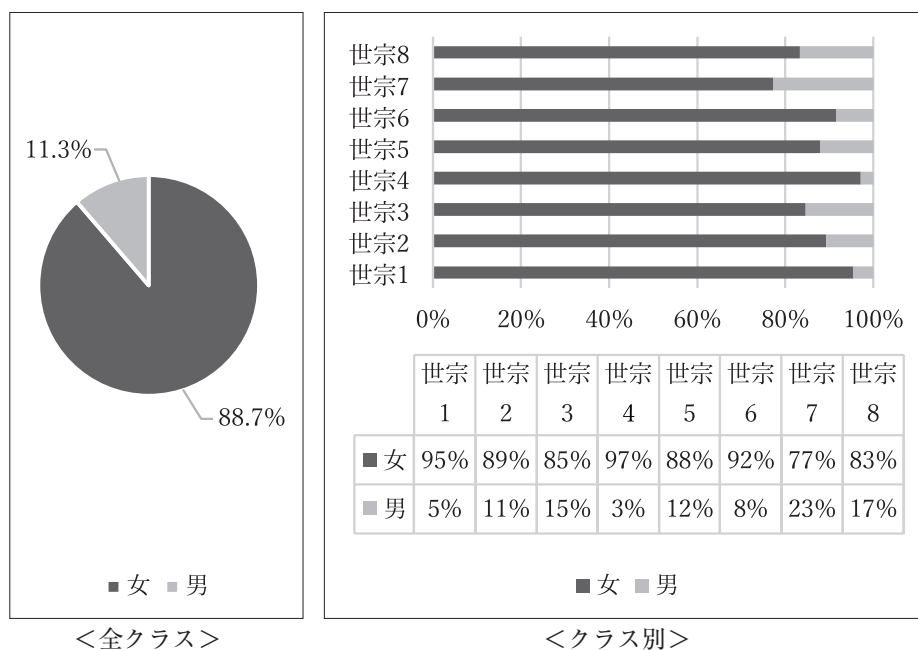


図1. 受講者の性別比

受講者の年齢層は図2に見るように, 全クラスを通して10代0.5% (1名), 20代4.7% (10名), 30代13.1% (28名), 40代27.2% (58名), 50代31.5% (67名), 60代以上22.5% (48名), 無回答0.5% (1名) で, 40代・50代の割合が高い。

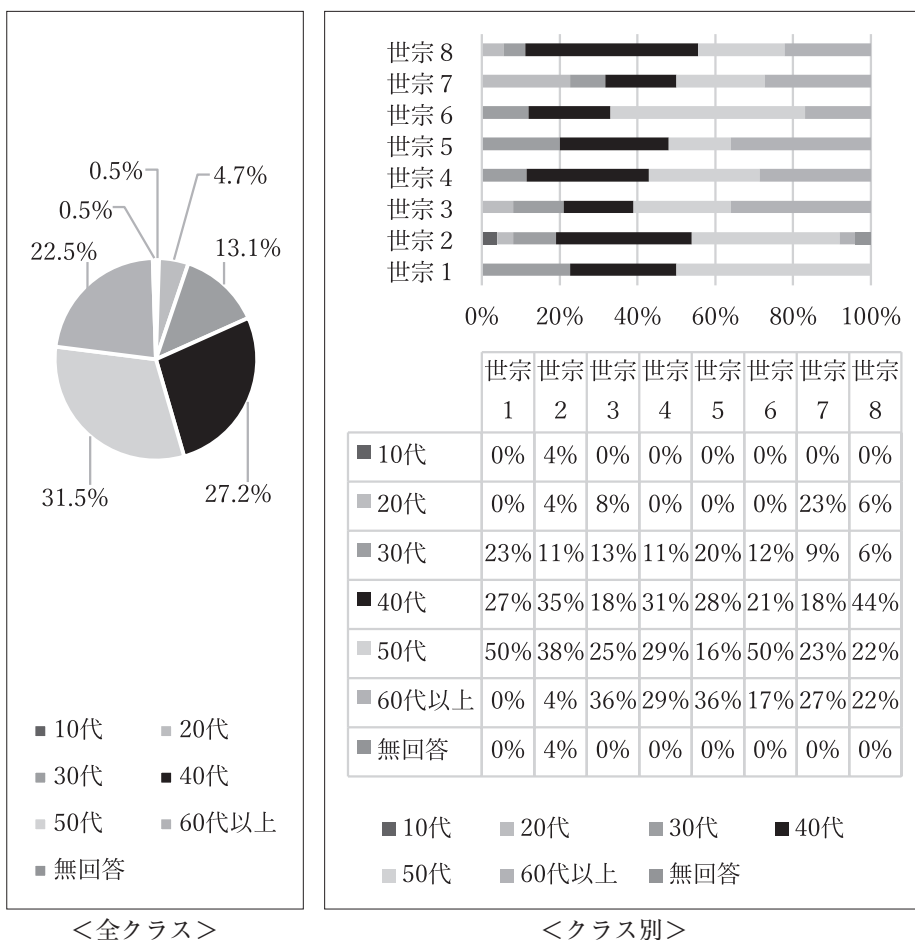


図2. 受講者の年齢層

受講者の留学経験は図3に見るように、レベルが上がるにつれてその割合が高くなる傾向があり、上級クラスの世宗7と世宗8の留学経験者はそれぞれ32%（7名）、28%（5名）である。

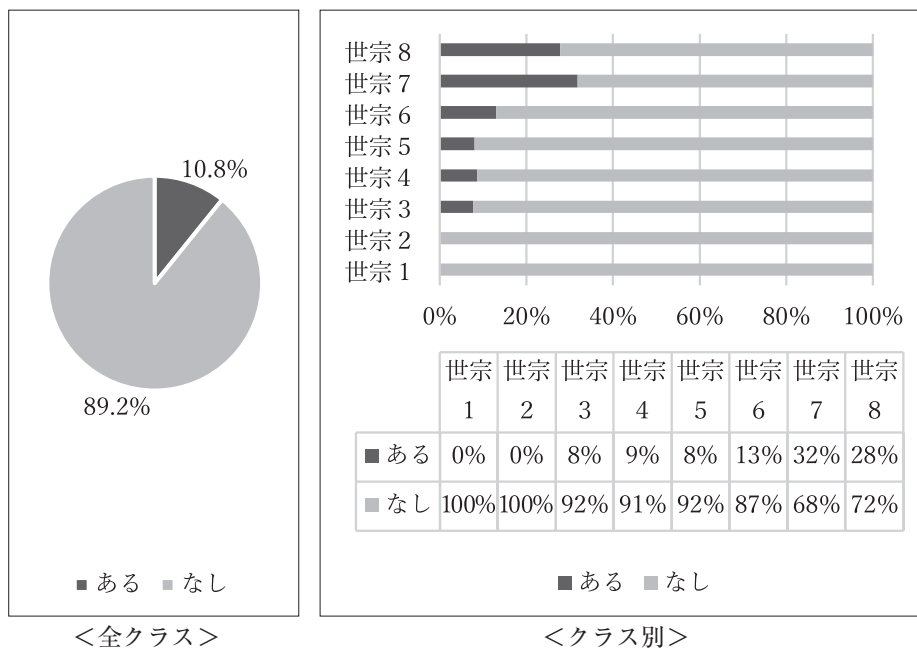


図3. 受講者の留学経験

受講生の韓国語関連の検定資格（韓国語能力試験（TOPIK）, 「ハングル」能力検定試験）の取得有無は図4のように、全クラスにおいて検定資格を取得している受講者は53.5%（114名）、取得していない受講者は46.5%（99名）で過半数以上の受講者が検定資格を取得している。そして、レベルが上がるにつれて検定資格を取得する割合が高くなる傾向があり、世宗6・7・8クラスでは70%以上の受講者が検定資格を取得していることが分かる。

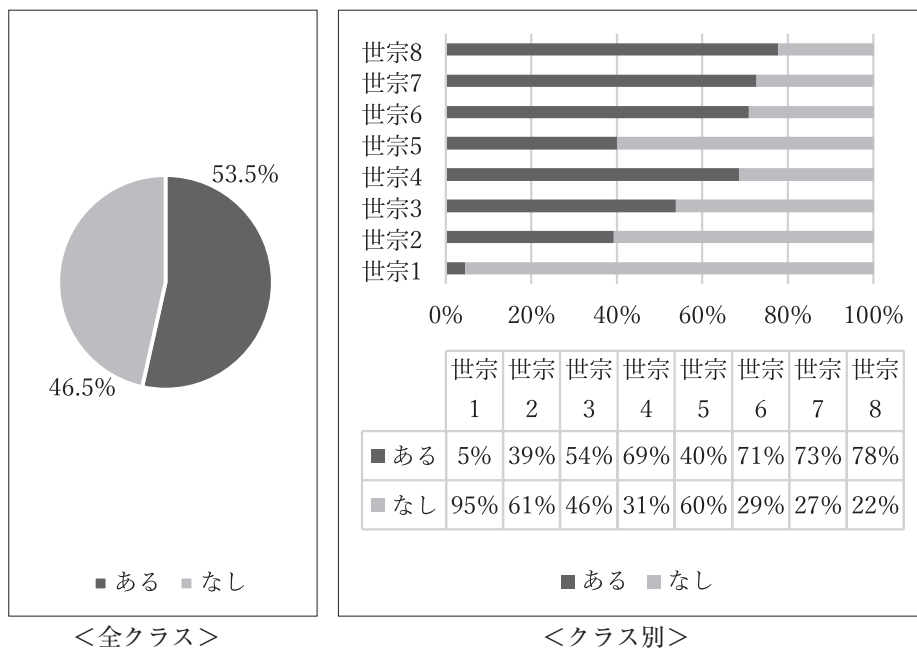


図4. 受講者の検定資格取得の有無

3.2. 調査方法

駐日韓国大使館韓国文化院の世宗学堂の協力のもと、2018年3月5日～13日に定期講座の19クラス（世宗1～世宗8）の受講者を対象に実施した。調査内容は、완자미 (2012), 정로 (2012), 유정 (2013), 이해경 (2013), 이은영 (2015), 송유주 (2016) などの外国人学習者を対象とした分かち書きの認識調査に関する先行研究を参考にし、韓国語の分かち書きに対する認知度, 分かち書きの基準を知っているかどうか, 分かち書きを学習した場所, 分かち書きに関する注意度, 分かち書きの難しさ, 分かち書きの教育の必要性という6つのトピックとそれに付随する内容を作成した。今回の調査では分かち書きの認識調査とともに実際の分かち書きの使用実態についても調査を行ったため⁵⁾, すべての回答が15分以内に終わるように認識調査については6つのトピックに絞って実施した。

4. 分析

4.1. 分かち書きに対する認知度

本調査に参加した対象者は図5に見るように、全クラスを通じて81.2%（173名）の受講者

5) Richard (2001) によると、ニーズ分析において一般的な情報の収集方法はアンケート調査で、限られた時間内に回答が得られ、統計処理が用意であることから集団間の比較分析に有利である。しかし、被検者の個人的な意見が反映されなかったり、アンケートの設問数が多い場合は誠実な回答が得られないという短所もある (이재선 (2011: 58))。本調査は世宗学堂の関係者と教員の了解を得て授業時間内にアンケートを実施しており、学習者の認識やニーズを分析するのに十分な回答時間は設けられなかった。そこで、学習者の負担を減らすために、アンケート項目に対しては選択式回答を、その理由などについては自由記述式で回答を求めた。

が分かち書きを「よく知っている」15.5% (33名), 「やや知っている」65.7% (140名) と回答した。世宗2クラスのすべての受講生は「よく知っている」(11%) または「やや知っている」(89%) と回答したが, これは世宗1と世宗2クラスの担当教員が授業で分かち書きについて指導をしていることによると考えられる⁶⁾。その他のクラスにおいても「やや知っている」と答えた割合が高く, 全く知らないと答えた人はいなかった。このことから世宗学堂の学習者は分かち書きに対する認知度が高いことが明らかになった⁷⁾。

先行研究においても完子米 (2012) では中・上級の中国人学習者の99%が分かち書きを知っていると答えており, 이혜경 (2013) では東南アジア出身の初・中・上級の学習者の71%が分かち書きを知っていた。また, 이은영 (2015) によると中国やカンボジアの留学生と外国人労働者の90%が分かち書きを知っていることが分かった。

Q1. 韓国語の「分かち書き」を知っていますか？

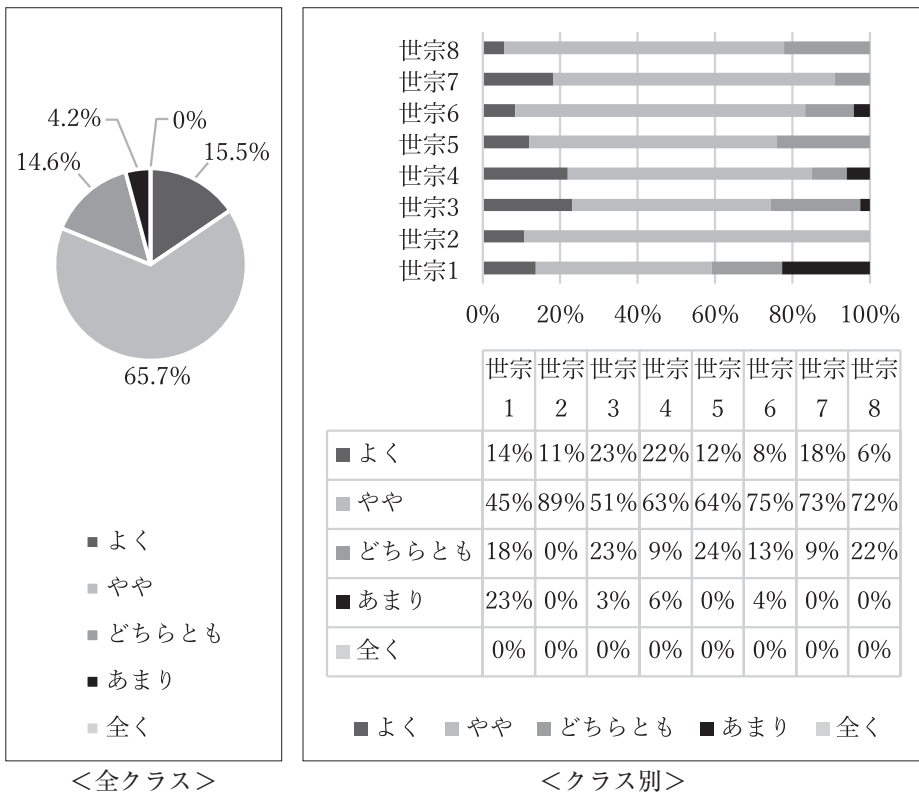


図5. 分かち書きに対する認知度

6) 世宗学堂の世宗1と世宗2クラスの担当教員は各2名いるが, 今回調査対象となった世宗1と世宗2クラスの教員はそれぞれ違う教員である。世宗学堂の教員が担当するクラスは年によって変わる場合があり, すべての教員が分かち書き指導を行っているとは限らない。

7) 筆者が東海大学で韓国語を学習している日本人初級学習者22名を対象に実施した分かち書きに関する意識調査 (金珉秀 (2016)) では, 分かち書きをよく知っていると答えた日本人学習者は1人もおらず, 95.4% (21名) が知らない (「あまり知らない」31.8% (7名), 「全く知らない」63.6% (14名)) と回答した。しかし, 東海大学のテキストと世宗学堂のテキストには両方とも分かち書きに関する詳しい内容が掲載されていないので, これを一概に日本における大学の教育と一般の成人を対象とした世宗学堂教育の違いであるとは言えないだろう。

今回調査対象となったクラスのうち、同じレベルのクラスを複数の教員が担当しているのは世宗3と世宗4である。次の表2のように世宗3クラスでは担当教員AとBのクラスで分かち書きに対する認知度の割合に差が見られたが、世宗4クラスでは、担当教員CとDのクラスで分かち書きに対する認知度の割合に差がほとんど見られなかった。このように今回の調査では、担当教員別に学習者の認知度に差が見られる場合があり、各担当教員の分かち書きの教育に対する価値観や指導方針が学習者の分かち書きに対する認知度に影響を及ぼしている可能性が示唆された⁸⁾。

表2. 世宗3クラスと世宗4クラスの担当教員別分かち書きに対する認知度

	よく	やや	どちらとも	あまり	全く	計
世宗3 (教員A)	32% (8名)	48% (12名)	20% (5名)	0% (0名)	0% (0名)	25名
世宗3 (教員B)	7% (1名)	57% (8名)	29% (4名)	7% (1名)	0% (0名)	14名
世宗4 (教員C)	23% (4名)	59% (10名)	12% (2名)	6% (1名)	0% (0名)	17名
世宗4 (教員D)	22% (4名)	61% (11名)	11% (2名)	6% (1名)	0% (0名)	18名

ところで、後述する4.3節の図7によると世宗1クラスを受講生は91% (20名) が授業で分かち書きを習っていると回答しているにもかかわらず、図5によると世宗1クラスの23% (5名) が分かち書きを「あまり知らない」と答えている。また、全体の14.6% (31名) が「どちらとも言えない」と答えており、世宗2クラスを除いてすべてのクラスにおいて「どちらとも言えない」と回答した学習者が現れた (図5)。日本語と違って韓国語に分かち書きがあるのは韓国語の文章を見れば気づくはずであるが、「あまり知らない、どちらとも言えない」と答えた学習者がいるということは分かち書きという用語を知らない場合や、分かち書きは知っているがその規定を詳しく知らないという意味で回答した可能性が考えられる。今回の調査では「あまり知らない、どちらとも言えない」と答えた学習者の意図を正確かつ詳細に汲み取ることができなかつたため、後続研究では分かち書きの規定に関する問題など、より具体的な質問項目を立てる必要があるだろう。

4.2. 分かち書きの基準について

韓国語の表記は「ハングル正書法 (한글 맞춤법)」(2017年改訂) に従い、文章の各単語は分かち書きをしなければならない (第1章総則第1節第2項)。つまり、韓国語の分かち書きの基準は単語である。しかし、図6のように分かち書きの基準については全クラスの63.8% (136名) が「読みやすさ」と回答している。これは分かち書きを「よく知っている、やや知っている」と答えた受講者が81.2% (4.1節の図5参照) であったにも関わらず、多くの学習者が分かち書きの基準を「読みやすさ」だと間違えて認識していることになる。これは日本語の文節

8) 今回の調査では世宗学堂の教員にも分かち書きの教育に関する認識調査を行っているが、韓国語教員の価値観や指導方針が学習者の分かち書きに対する認識にどのような影響を及ぼすかについてはその結果分析をもとに別の機会に取り上げたい。

は韓国語の区切り読みの単位と一致する場合が多く、分かち書きの基準を文節と考えているからだと思われる⁹⁾。

一方、分かち書きの基準を正しく「単語」と正しく答えた学習者は全クラスを通じて23% (49名) に過ぎなかった。クラス別では世宗5の正解率(32%)が一番高く、世宗6の正解率(12%)が一番低い結果となった。

Q2. 韓国語の「分かち書き」の基準は何だと思いますか？

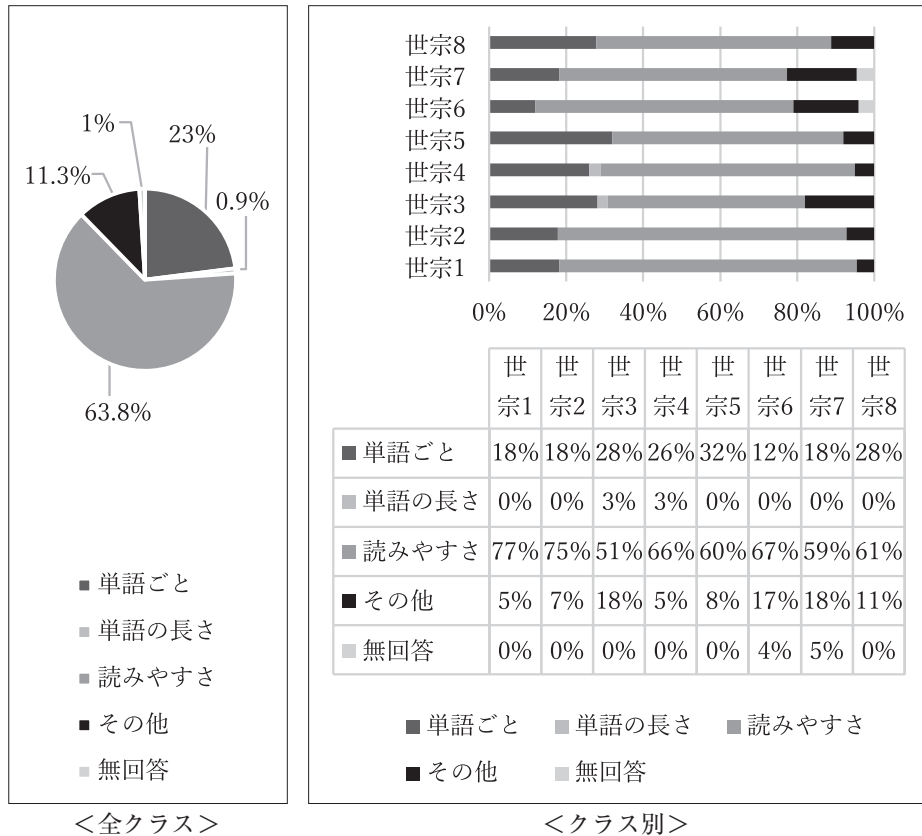


図6. 分かち書きの基準について

分かち書き基準に関するその他の意見としては「意味の分かりやすさ（世宗1）、品詞（世宗2）、分かち書きという名称しか知らない（世宗3）、文節ごと（世宗4・5）、意味の区切り（世宗6）、正書法・慣習・意味の切れ目・あまり統一されていないと思う（世宗7）、文節ごと（世宗8）」などがあった。ところが、助詞は前の語に繋げて書くという例外があることから、「単語ごと」という選択肢を選ばなかった学習者がいる可能性もあり、その他を選んだ回答を不正解とすべきかについては疑問の余地は残る。

また、今回の調査では分かち書きの基準を「単語」と正しく答えた学習者がはたして分かち書き規定を熟知してそう答えたのかは把握できなかった。今回一緒に調査した分かち書き使用

9) この点については、匿名の査読者から大変有益なコメントをいただいた。ここに記して感謝の意を表する。

実態の結果と比較することで分かち書きの規定に関する熟知度や、分かち書きの基準をどのように捉えているかなどが明らかになると思われるが、これについては別の機会に改めて検討したい。

4.3. 分かち書きの学習場所

分かち書きを学習した場所については世宗学堂の授業で習ったと答えた学習者が全体の72.6% (159名) を占めている (図7)。特に世宗1 (91%/20名) と世宗2 (96%/27名) は90%以上の学習者が授業で習ったと回答しているのに対し、レベルが上がるにつれてその割合は低くなり、世宗8では35% (7名) が授業で習っていると回答した。そして、世宗7の42% (10名)、世宗8の30% (6名) の学習者が本などを見て独学で分かち書きを学んだと答えており、世宗学堂の上級課程では分かち書きの教育が積極的に行われていないと考えられる。

一方、分かち書きを習っていないと答えた学習者は全体の7.3% (16名) と低い割合であるが、他のクラスに比べて世宗6 (12%/3名) と世宗8 (30%/6名) の割合は少し高い傾向が見られた。

Q3. 「分かち書き」はどこで習いましたか？ (複数回答)

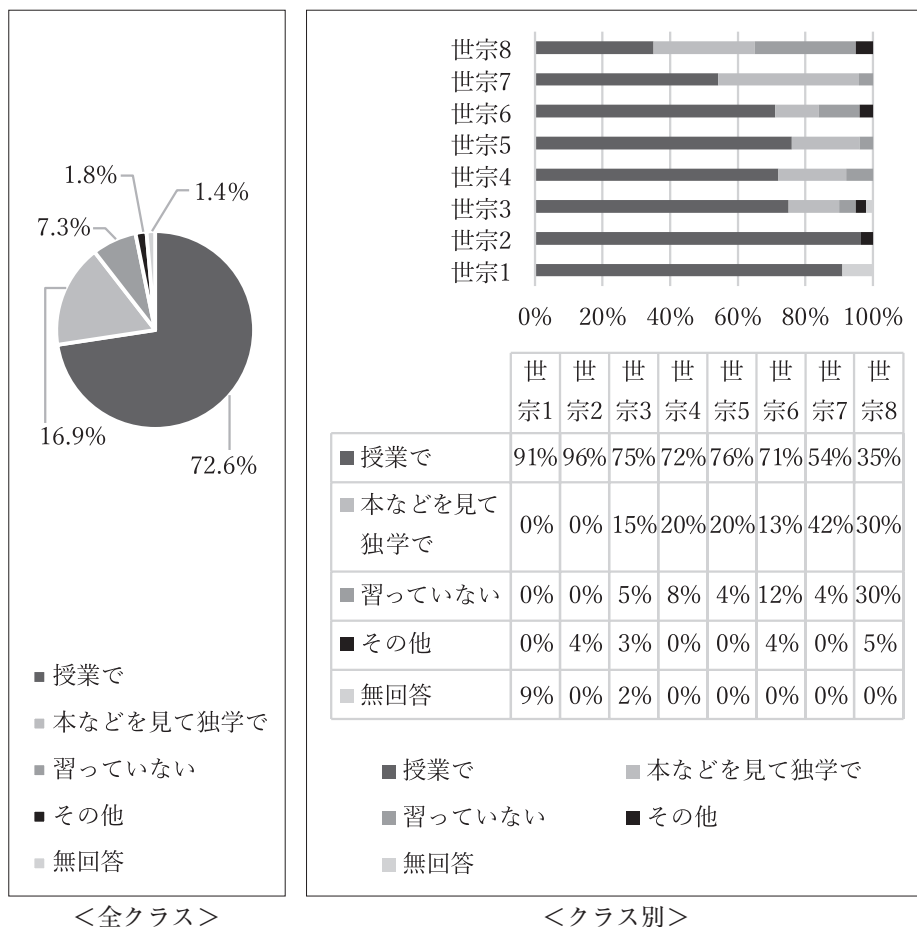


図7. 分かち書きの学習場所

ところで、世宗学堂の受講生のほとんどは世宗1から進級テストを受けて上のレベルに進級するが、中・上級クラスは新規で受講する人もおり、中級（世宗3・4）と上級（世宗7・8）の学習者が「独学で・授業で習っていない」と答えたのは、別の教育機関や以前受講したクラスで分かち書きの教育が行われていなかったことや現在のクラスで分かち書きの教育が行われていないことが考えられる。

以上のことから、2017年度の世宗学堂の入門クラスでは分かち書きの教育が積極的に行われていると言えるが、上級クラスではあまり行われておらず、あくまでも分かち書きの教育は担当教員の分かち書きに対する価値観や教育指針によって左右されていると言えよう。

4.4. 分かち書きに対する注意度

韓国語の文章を書くときに分かち書きについて注意を払っているかどうかについては、全クラスを通じて82.2%（175名）の受講者が「とても注意を払っている」32.9%（70名）、「やや注意を払っている」49.3%（105名）」と回答した。世宗7は「とても注意を払っている」27%（6名）と「やや注意を払っている」64%（14名）を合わせて91%（20名）が注意を払っていると答えており、全クラスにおいてその割合が一番高い（図8）。そして、全クラスを通じて全く注意を払っていないと回答した人は世宗6の1名に過ぎない。このことからほとんどの学習者が韓国語の文章を書くときに分かち書きを気にしていることが判明した。

Q4. 韓国語の文章を書くときに、「分かち書き」について注意を払っていますか？

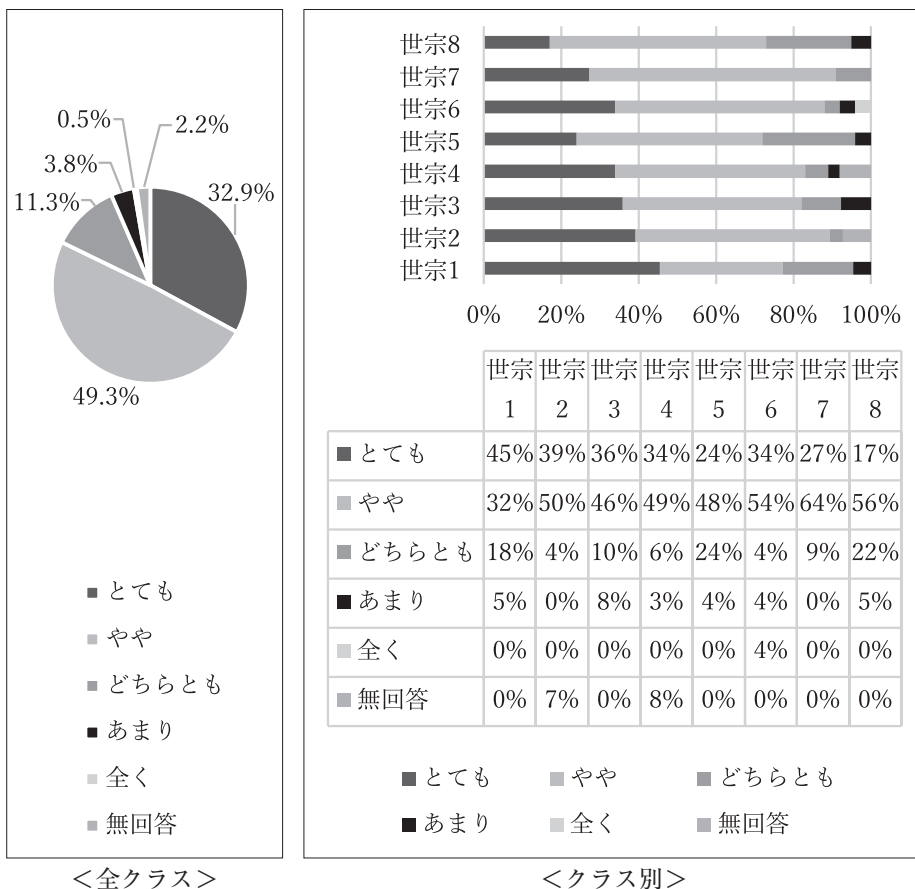


図8. 分かち書きに対する注意度

また、「どのような点に注意を払っていますか?」という質問に対しては表3のような回答が得られた。

表3. 分かち書きについて注意を払っている点

世宗 1	助詞の後・単語の区切り・意味・文法
世宗 2	意味・単語・文章の読みやすさ・助詞の後・数字や単位の後・読みやすさ
世宗 3	読みやすさ・規則・単語・助詞
世宗 4	単語に助詞をつけるとき・見やすさ・文章の意味をそこなわないように・意味・文節・日本語の「,」を打つ場所と違う点
世宗 5	意味・読みやすさ・単語
世宗 6	意味・文法・単位がつくとき・助詞がつくとき・時間・日にち・数字・相手に伝えるように・宿題やほかの人が見るとき簡単に読めるように
世宗 7	文字と文字の間・単語と単語の間・意味・助詞・読みやすさ
世宗 8	意味・漢字語の複合名詞・文法・読みやすさ・助詞・副詞・韓国の若者のように崩すのではなく標準的に書く・こまめに辞書を引く・実際の文章で確認する

その他に分かち書きに注意を払う理由としては以下が挙げられている。

- (1) 授業で大事だと教えてもらったから・正確な韓国語を学びたいから (世宗 1)
- (2) 文法として必要だから (世宗 2)
- (3) 分かち書きをしないと伝わらない文章があるから (世宗 3)
- (4) 分かち書きの有無で意味が異なる場合もあるから・作文のとき重要だった・作文で減点されないように・進級テストで減点されるから (世宗 4)
- (5) 作文を書くとき必要だから (世宗 6), 正しい分かち書きをできるようになりたいから・読みやすくするため (世宗 8)

韓国語の文章を書くときに分かち書きに注意を払っていない理由としては以下が挙げられているが、全クラスを通じて「難しい、よくわからない」という理由が多い。

- (1) 難しい・よく分からない・まだ文章を理解していないから (世宗 1)
- (2) よく分からない・分かち書きするのを忘れてしまう (世宗 3)
- (3) 難しい・よく分からない・日本語と違うから (世宗 4)
- (4) ネットを見るとあまり分かち書きをしていないから・学校では正しく書かなくてはいけないが、実際 SNS (カカオトークなど) ではくっつけてしまうから・文法や表現に意識が向いて分かち書きまで気が回らない・注意しなくてはと思いつつもルールが頭に入っていないから・単語が正しければ通じると思うから (世宗 5)
- (5) 今まで習わなかったから・よく知らない・諦めた・パソコンで検索できるから (世宗 6)
- (6) 難しい・テストの点に影響するから (世宗 7)
- (7) 習わなかったので分からない・忘れてしまう (世宗 8)

ところで、全クラスの11.3% (24名)は「どちらとも言えない」と答えた(図8)。これは分かち書きが教科書や教育内容に含まれていないためあまり気にしない場合や、実際に韓国語の文章を書く機会が少ないためそう答えたとも考えられるが、今回の調査では学習者の真意は把握できなかった。

4.5. 分かち書きの難しさについて

分かち書きの難しさについては全クラスを通じて82.6% (176名)の学習者が「とても難しい」23% (49名)、「やや難しい」59.6% (127名)と回答した(図9)。あまり難しくないと答えた人は全クラスを通じて2.8% (6名)に過ぎず、全く難しくないと答えた人はいない。このことから日本人韓国語学習者が分かち書きを大変難しく感じていることが分かる¹⁰⁾。

「とても難しい、やや難しい」と回答したレベル別の割合は世宗1の96% (21名)、世宗2の71% (20名)、世宗3の85% (33名)、世宗4の77% (27名)、世宗5の80% (20名)、世宗6の88% (21名)、世宗7の77% (17名)、世宗8の95% (17名)である。このことからレベルが上がっても分かち書きについては難しいと感じる日本人韓国語学習者の割合は依然として高いことが分かる。

10) 송유주 (2016)によると、中国やベトナムなど学問目的学習者の27%が分かち書きが「難しい」と答えており、「普通」は62%、「難しくないと」は10%である。이혜경 (2013)では、東南アジア出身の初・中・上級の学習者の47%が分かち書きが難しいと答えており、31%は簡単だと答えた。これらの先行研究に比べて本調査では難しいと答えた日本人学習者の割合が高いが、これは母語や国民性などの影響も考えられる。教材や教育課程の開発においてはこのような母語や国民性などの影響も考慮し、検討する必要があるだろう。しかし、本調査ではこれについては解明できないため、分かち書きに関する外国人学習者の母語別認識の違いについては今後の研究が待たれる。

Q5. 韓国語の「分かち書き」についてどう思いますか？

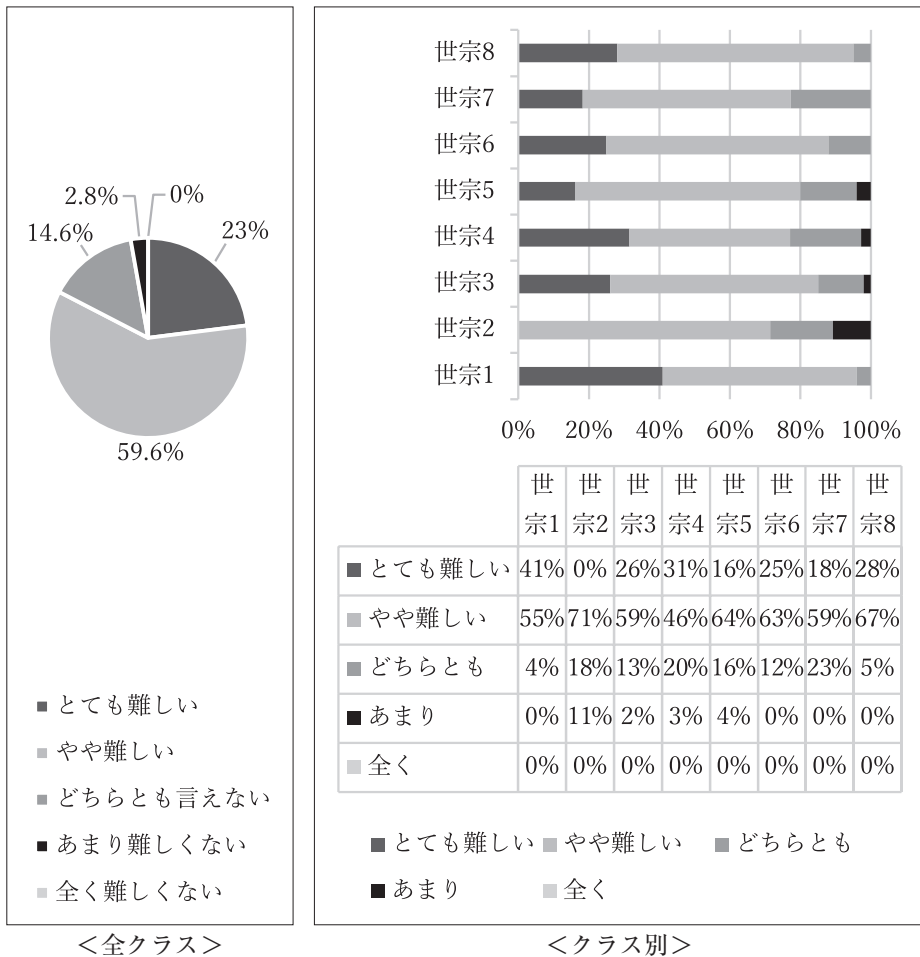


図9. 分かち書きの難しさについて

また、分かち書きを難しく感じていることについては以下のような意見が挙げられている。

- (1) 熟語のときがよく分からない・単語は分かってても助詞などをどう分けるか分からない・同じ単語のつづりでも分かち書きが異なるときがある・単語で区切っているように思えないときがある (世宗5)
- (2) 分かち書きに慣れていない・習っているがまだ難しいので先生に質問する・単語で区別するものだけでなく規則に従ってしなければいけない (世宗6)
- (3) 正しい分かち書きにしないと意味が異なる・合成語は分かち書きするのかわからないのか悩む (世宗7)
- (4) 文法を知ってから分かるものもある (世宗8)

一方、「あまり難しくない」と答えたのは全体の2.8% (6名) に過ぎず、「どちらとも言え

第39輯 (2019)

ない」と答えたのは全体の14.6% (31名) であった。世宗2クラスでは「とても難しい」と答えた人はおらず、11% (3名) は「あまり難しくない」と答えたが、世宗2クラスは96%の学習者が授業時に分かち書きを習っていると答えており (図7)、これは授業時に分かち書きについて習ったことで分かち書きに多少慣れているからだと思われる。

ところで、今回の調査では5段階評価を行っており、日本人学習者が分かち書きについてどう思っているかについておおまかに把握することはできたが、学習者が具体的に何を難しく感じているのかは解明できなかった。また、初・中・上級学習者が難しいと感じるのはそれぞれ違うレベルの難しさを意味するので、後続研究では実際の使用実態における誤用のパターンと照らし合わせながら検討する必要があると考えられる。

4.6. 分かち書きの教育の必要性

金珉秀 (2016) によると、東海大学で韓国語を学んでいる日本人初級学習者22名のうち、81.8% (18名) が分かち書きの教育の必要性を感じていた。そして、今回の調査においても授業時の分かち書きの教育の必要性について全クラスを通じて「とてもそう思う」58.6% (119名)、「ややそう思う」38.4% (78名) の回答が全体の97% (197名) を占めている (図10)。あまりそう思わないと答えた人は世宗3の1名に過ぎず、全く必要がないと答えた人はいない。완자미 (2012) では学習者の95%、정로 (2012) では68.6%、유정 (2013) では100%、이혜경 (2013) では79%、송유주 (2016) では70%が分かち書きの教育の必要性を感じており、他の外国人学習者と同様に日本人韓国語学習者も分かち書きに関する指導が必要だと思っていることが分かる。

Q6. 韓国語の「分かち書き」について授業で習う必要性があると思いますか？

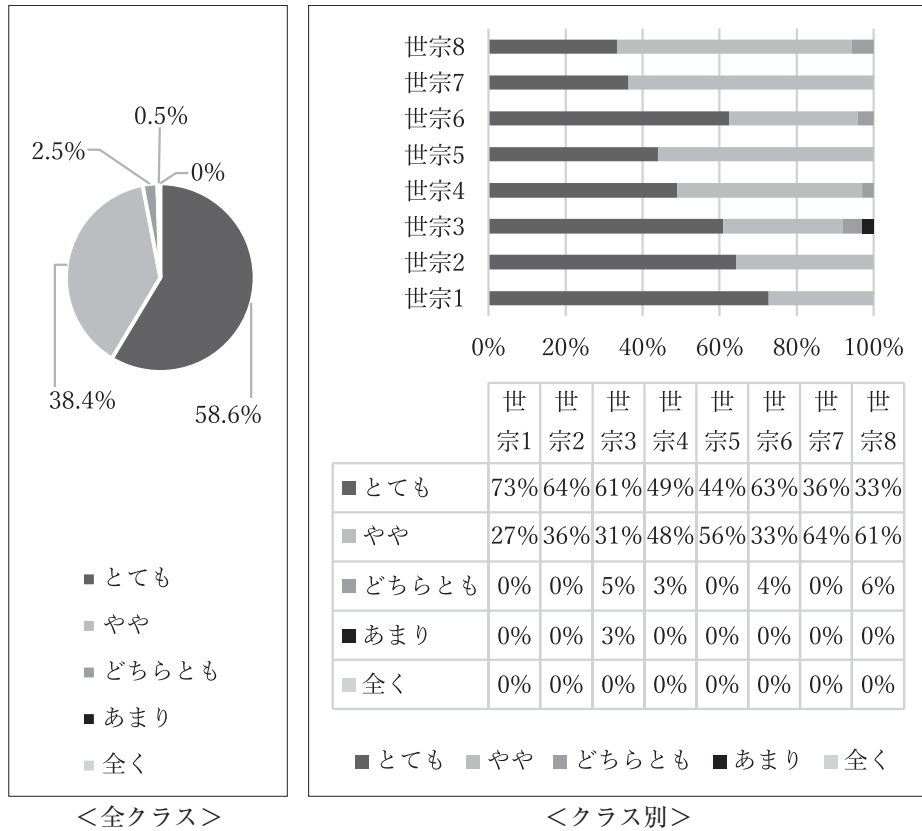


図10. 分かち書きの教育の必要性

分かち書きを授業で習う必要性があると答えた人は「書くときに分かってないと書けない (世宗3), 文を書く上で大切である (世宗4), 日本語と違うときもある (世宗5), 後で習うと癖がついていて直しにくいから初めから習う必要がある (世宗6)」などの理由を挙げている。

そして、図11に見るように、分かち書きを授業で習う必要性があると答えた人はその教育の時期について、全クラスの87.3% (179名) の学習者が初級段階で習うべきであると回答した。分かち書き規定は文法項目とも関連があるため、初級段階では分かち書きに関する基本的な概念や初級文法に関連するルールについて指導し、その後も学習者のレベル別の文法項目と関連づけて指導するのが望ましいだろう。しかし、日本人学習者のほとんどは初級段階で習うべきだと答えており、分かち書きを韓国語の文章を書くうえで基礎的な知識として捉えていると考えられる。

一方、中級 (世宗6) と上級クラス (世宗7・8) では各学習段階で習う必要があると回答した学習者もそれぞれ21% (5名), 17% (4名), 26% (5名) おり、自身の学習レベルに合った分かち書きの指導を希望している学習者がいることが示唆された。また、段階別に習う内容に合わせて習うのが望ましいというその他の意見 (2名) もあった。

Q6-1. いつ習うべきだと思いますか？

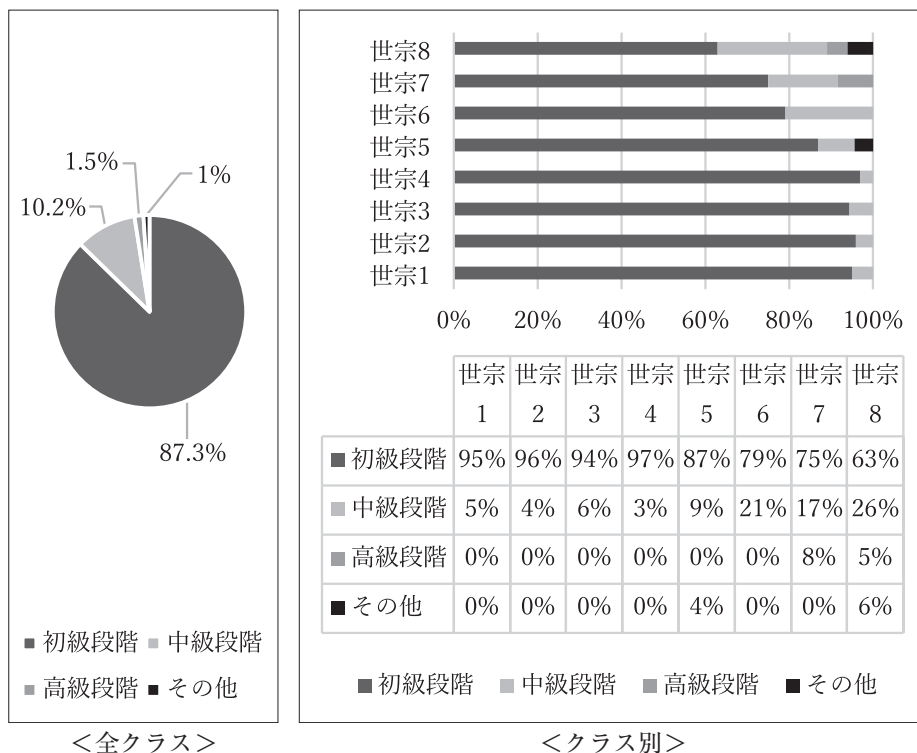


図11. 分かち書きの教育の時期

また、授業時に習わなくてもいい理由としては以下が挙げられている。

- (1) 自然に分かるから・習慣で書いているうちに覚えていくから (世宗3)
- (2) よく分からないから (世宗4)
- (3) 他にもやらなければならないことがたくさんあるから (世宗6)
- (4) 重要でないと思うから・時代によって変わるから (世宗8)

(1)のように「自然に分かるから・習慣で書いているうちに覚えてくるから」分かち書きを習わなくてもいいと答えた学習者もいるが、上級学習者の韓国語の文章にも依然として分かち書きの誤用が残っており、分かち書きは学習者のレベルが上がるにつれて自然に身につけられるかどうかについては今後分かち書きの使用実態の結果と比較しながら検討していきたい。

また、分かち書きの教育の必要性については世宗学堂の受講生のように自ら進んで学習を行う学習意欲の高い学習者は分かち書きに関心があるという意味で分かち書きの教育が必要であると答えた可能性も考えられる。今後の後続調査ではこれらを踏まえて分かち書きに限らず、日本人学習者が韓国語の文章を書くときにどのような点に関心を持っているのか、どのような点に注意しているのかなどについても詳しく調査することで、学習者が分かち書きの教育の必要性をどう考えているのかがより明確に把握できると考えられる。

5. まとめと今後の課題

以上、アンケート調査を通じて世宗学堂の日本人韓国語学習者の分かち書きに関する認識について考察した。本調査の結果をまとめると以下の通りである。

- (1) 分かち書きに対する認知度は全クラスを通じて全体の81.2%の学習者が「知っている」と回答しており、全く知らないと回答した人はいなかった。このことから世宗学堂の学習者は分かち書きに対する認知度が高いことが明らかになった。しかし、今回の調査では「あまり知らない、どちらとも言えない」と答えた14.6%の学習者の意図を正確に汲み取ることはできなかったため、後続研究では分かち書きの規定に関する問題など、より具体的な質問項目を立てる必要があると考えられる。
- (2) 分かち書きの基準を「単語」と正しく答えた学習者は全クラスを通じて23%に過ぎず、全クラスの63.8%が「読みやすさ」と間違えて認識していることが分かった。クラス別では世宗5の正解率(32%)が一番高く、世宗6の正解率(12%)が一番低い結果となった。しかし、今回の調査では分かち書きの基準を「単語」と正しく答えた学習者が分かち書き規定を熟知してそう答えたのかは把握できなかった。
- (3) 分かち書きの学習場所については世宗学堂の授業で習ったと答えた学習者が全体の72.6%を占めているが、世宗学堂では分かち書きの教育に関する統一的教育方針はないため、分かち書きの教育は各担当教員によって左右されていると考えられる。
- (4) 全クラスの82.2%の学習者が韓国語の文章を書くときに分かち書きについて注意を払っていると回答しており、ほとんどの学習者が韓国語の文章を書くときに分かち書きを気にしていることが分かった。
- (5) 全体クラスの82.6%の学習者は分かち書きを難しいと感じており、レベルが上がっても分かち書きを難しいと感じる日本人学習者の割合は依然として高いことが分かる。ところで、今回の調査では5段階評価を行っており、日本人学習者が分かち書きについてどう思っているかについておおまかに把握することはできたが、学習者が具体的に何を難しく感じているのかは解明できなかった。
- (6) 全クラスの97%の学習者が授業時の分かち書きの教育の必要性を感じており、授業時に分かち書き指導を受けたいと感じていることが分かった。そして、分かち書きの教育が必要だと答えた人はその教育時期について87.3%が初級段階で習うべきであると答えており、分かち書きを韓国語の文章を書くうえで基礎的な知識として捉えていると考えられる。一方、中級と上級クラスでは各学習段階で習う必要があると回答した学習者もあり、自身の学習レベルに合わせた分かち書き指導を希望している学習者がいることが示唆された。また、分かち書きは学習者のレベルが上がるにつれて自然に身につけられるかどうかについては今後分かち書きの使用実態の結果と比較しながら検討していきたい。

本稿は入門・初級・中級・上級のレベル別日本人学習者の分かち書き認識に関する基礎調査を行ったという点で意義があると考えられる。しかし、本稿では量的調査を行っており、学習者個人が持っている分かち書きに関する認識を具体的に把握するには限界があり、学習者のニーズを的確に捉えているのかについて疑問の余地が残る。

そして、本稿はあくまでアンケートを実施した世宗学堂の学習者の認識を考察したものであり、

今回の調査で分かち書きの教育の必要性は認められたが、本稿の結果が日本人学習者の認識を一般化できるとは限らない。韓国語を専攻する大学生と第2外国語や一般教養科目として韓国語を学ぶ大学生を対象とした場合はまた違う結果になる可能性もある。

今後は韓国語教員の認識と併せて量的・質的調査をさらに進めていく必要がある。また、学習者ニーズを明らかにしたうえで分かち書きに関する指導事項立てとその効果検証も行っていく必要があると考えられるが、これらについては今後の課題としたい。

<参考文献>

- 강승혜 (2003). 한국문화 프로그램 개발을 위한 한국어 학습자 요구분석: 일본 학습자 집단과 중국 학습자 집단의 비교. *한국어교육*. Vol.14, No. 3, pp. 1-29.
- 권미정 (2001). 교사와 학습자의 학습 방법 선호도 비교. *한국어교육*. Vol.12, No. 2, pp.300-322.
- 김정숙 (2000). 학문적 목적의 한국어 교육과정 설계를 위한 기초 연구 - 대학 진학생을 위한 교육과정을 중심으로. *한국어교육*. Vol.11, No. 2, pp. 1-19.
- 김인규 (2003). 학문 목적을 위한 한국어 요구 분석 및 교수요목 개발. *한국어교육*. Vol.14, No. 3, pp.81-113.
- 민현식 (2004). 한국어 표준교육과정 기술 방안. *한국어교육*. Vol.15, No. 1, pp.51-92.
- 송경옥 (2012). 여성결혼이민자를 위한 띄어쓰기 지도 방안 연구. 인하대학교 대학원 석사학위논문.
- 송유주 (2016). 학문 목적 학습자 대상 띄어쓰기 교육을 위한 교육 방안 연구. 세종대학교 대학원 석사학위논문.
- 신조오 후토시 (2004). 외국어로서의 한국어 수업에 대한 학습자와 교수자의 요구분석 연구: 일본 고등학교를 중심으로, 연세대학교 대학원 석사학위논문.
- 완자미 (2012). 중국인 한국어 학습자의 띄어쓰기 실태와 지도 방안. 전남대학교 대학원 석사학위논문.
- 유정 (2013). 중국인 한국어 학습자를 위한 띄어쓰기 교육 방안 연구. 인하대학교 대학원 석사학위논문.
- 유일선 (2018). 한국어 학습자 대상 띄어쓰기 교육 내용 선정 연구. 부산외국어대학교 대학원 석사학위논문.
- 이재선 (2011). 의료전문인을 위한 영어 교수요목 설계: 요구 분석을 중심으로. 강원대학교 대학원 문학박사학위논문.
- 이은영 (2015). 한국어 학습자를 위한 효율적인 띄어쓰기 교육방안: 한국어 학습자의 띄어쓰기 오류분석에 따른 문법교육 방안을 중심으로. 남서울대학교 대학원 석사학위논문.
- 이혜경 (2013). 이주노동자를 위한 한국어 띄어쓰기 지도 방안 연구. 인하대학교 대학원 석사학위논문.
- 정로 (2012). 중국인 초·중급 학습자의 한국어 띄어쓰기 오류 양상 연구. 계명대학교 대학원 석사학위논문.
- カイト由利子・沈国威・杉谷眞佐子 (2002). 「外国語学習に関する意識調査—学生による質問票調査から」外国語教育研究 第3号, 関西大学外国語教育研究機構, pp.93-121.
- 金珉秀 (2016). 「日本人韓国語初級学習者における韓国語の分かち書きの使用実態 - 韓国語母語話者との比較を中心に」『韓国語教育研究』6, pp. 7-30.
- 田中祐輔・張珩 (2011). 「学習ニーズの多様化に対応する日本語教材開発の取り組み—復旦大学日本語学習状況調査による「学習当事者ニーズ」の検討とその効果—」神奈川大学大学院言語と文化論集17, pp.169-185.
- Richards, J.C. (2001). *Curriculum Development in Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press. (再引用; 신조오 후토시 (2004: 29))